

## 【補充資料 3 - 】年間指導計画

年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画

### 1 教科目標

教科	目 標
地理・歴史	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。

### 2 評価の観点及び趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	歴史的・地理的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的・地理的事象を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的事柄を理解し、その知識を身に付けている。

### 3 各学年での指導科目と目標

#### 1 学年

科目	単位数	科目の目標	備考
世界史A	2	近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	全員必修
政治・経済	2	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。	全員必修

#### 2 学年

科目	単位数	科目の目標	備考
世界史B(選択) または 3	4 または 3	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	文系コースは4単位 理系コースは3単位
日本史B(選択) または 3	4 または 3	我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。	文系コースは4単位 理系コースは3単位
地理B(選択) または 3	4 または 3	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	文系コースは4単位 理系コースは3単位

#### 3 学年

科目	単位数	科目の目標	備考
政治・経済(選択) または 2	4 または 2	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。	文系コースは4単位 理系コースは2単位
世界史B(選択) または 2	4 または 2	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	文系コースは4単位 理系コースは2単位
日本史B(選択) または 2	4 または 2	我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。	文系コースは4単位 理系コースは2単位
地理B(選択) または 2	4 または 2	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	文系コースは4単位 理系コースは2単位

【補充資料 3 - 】年間指導計画

年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画					
科目・単位数・指導学年		目 標			
日本史 B 4 単位 2 学年		我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。			
使用教科書		使用副教材			
評価規準					
関心・意欲・態度		思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解	
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。		我が国の歴史の展開から課題を見出し、世界史適視野に立って多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。	
内容のまとめり(単元)ごとの内容と評価規準及び評価規準の具体例					
内容のまとめり(単元) (3) 中世の社会・文化と東アジア ア 武家政権の成立					
内 容		武士の土地支配と公武関係、宋・元とのかかわりに着目して、武家政権の形成過程と鎌倉心仏教など文化に見られる新しい気運について理解させる。			
評価の観点		関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
評価規準		武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開から課題を見だし、東アジア世界の動向と関連づけて多面的・多角的に考察している。	武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開に関する諸資料を活用することや、博物館や文化遺産を活用することなどを通して、歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現している。	武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開についての基本的な事柄を東アジア世界の動向と関連づけて理解し、その知識を身に付けている。
評価規準の具体例		<ul style="list-style-type: none"> <li>・武家政権の形成過程と鎌倉心仏教など文化に見られる新しい気運に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。</li> <li>・産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽など文化の動向に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武家政権の形成過程と鎌倉心仏教など文化に見られる新しい気運から課題を見だし、武士の土地支配と公武関係、宋・元との関わりと関連付けて多面的・多角的に考察している。</li> <li>・産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化の関わりや庶民文化の萌芽など文化の動向から課題を見だし、日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との交流、庶民の台頭と関連付けて多面的・多角的に考察している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武家政権の形成過程と鎌倉心仏教など文化に見られる新しい気運に関する文献、絵画などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現している。</li> <li>・産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽など文化の動向に関する文献、絵画などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武家政権の形成過程と鎌倉心仏教など文化に見られる新しい気運についての基本的な事柄を宋・元との関わりと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>・産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽など文化の動向についての基本的な事項を日明貿易など東アジア世界との交流と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</li> </ul>

平成17年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画 (教科: 日本史B)					
指導学年	単位数	内容のまとめり(単元)			
2学年	4	(例) 第4章 中世社会の成立			
小単元	配当時間	1 単位時間の授業における評価規準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
第4章の3 (武士の社会)  導入 展開 まとめ	2 (その1)	<p>事前学習プリントに、関心をもって取り組もうとしている。</p> <p>執権政治の確立の過程に関心を持ち、積極的に当時の時代感覚に近づこうとしている。</p> <p>御家人達の土地への強い思いに対して関心を高め、意欲的に追究しようとしている。</p> <p>北条政子の切迫した思いと、武士たちの動揺する心情に対して関心を高め、意欲的に追究しようとしている。</p> <p>学習したことを基にして、さらに新しい課題を見つけようとしている。</p>	<p>「一生懸命」は元々「一所懸命」と書かれていたことから、武士達にとって、土地の持つ意味の重要性について考察している。</p> <p>御家人立ちの將軍専政への不信感が、御家人立ちの合議制へとつながっていった事を考察している。</p> <p>北条政子が涙の演説をしなくてはならないほど、幕府の状況が緊迫していたことを考察している。</p> <p>摂家將軍が頼朝との血縁関係にあることから、源氏の系統を將軍にしようとする幕府の配慮について考察している。</p> <p>承久の乱が、朝廷に対する幕府の優位の確立と、地方支配の拡充をもたらした、幕府政権の全国化につながった点を考察している。</p>	<p>自己評価シートや事前学習プリントに回答し、レーダーチャートを作成する。</p> <p>北条政子の演説を、現代語に訳して、調べた過程や結果を分かりやすく、適切に表現している。</p> <p>摂家將軍と頼朝の関係を系図を利用して説明できる。また、血縁関係にあることが何を意味するのかを自分の言葉で表現できる。</p> <p>資料等を適切に活用しているかを、発表や学習プリントをとおして評価する。</p> <p>学習活動で理解した内容や、授業で身につけた思考力等を表出できるかを確認する。</p>	<p>事前学習プリントの基礎的な学習内容を理解できる。</p> <p>北条氏が執権として幕府の実権を握っていく過程を理解できる。</p> <p>承久の乱が幕府の存亡を賭けた戦いであったことを理解できる。</p> <p>北条氏が將軍の権威を維持するために、摂家將軍の擁立をはかったことを理解する。</p>
第4章の4 (蒙古襲来と幕府の衰退)  導入 展開 まとめ	2 (その1)	<p>事前学習プリントに、関心をもって取り組もうとしている。</p> <p>事前学習プリントから、元寇に対する関心を高め、意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>初めて戦う外国の軍隊に対して、武士達が当惑しながらも努力した心情に近づこうとしている。</p> <p>学習したことを基にして、さらに新しい課題や問題意識を見つけようとしている。</p>	<p>蒙古襲来の恐ろしさが、岩手の方言にも「もう」の話として残っていることについて考察している。</p> <p>何故、元が日本を攻撃したかについて、南宋を牽制する目的だったことを地図などを見ながら考察することができる。</p> <p>元寇後、幕府の支配権が全国に拡大するにつれて、北条氏の支配権の拡大もおこり、それが、御内人と御家人の対立を生んでいく背景になったことを考察している。</p>	<p>事前学習プリントに、関心をもって取り組もうとすることができる。</p> <p>蒙古襲来絵巻から元軍と武士の戦いの違いを説明できる。</p> <p>蒙古襲来絵巻を竹崎季長が描かせた理由を考えることができる。</p> <p>資料などから、必要な情報を読み取れているかを、発表や学習プリントをとおして評価する。</p>	<p>事前学習プリントの基礎的な学習内容を理解できる。</p> <p>元寇の失敗の原因は、自然が味方しただけでなく、征服された国々の抵抗や、九州の武士たちの奮闘があったためであることを理解できる。</p> <p>得宗の強大化が霜月騒動の背景となったことを理解できる。</p>

【補充資料 3 - 】授業者用評価シート

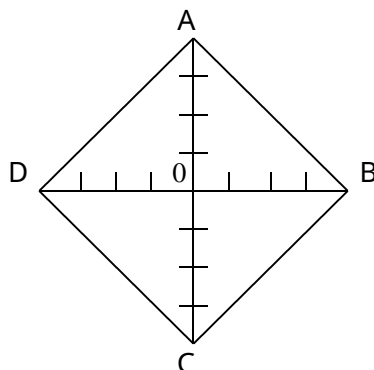
「第 4 章 3 武士の社会」( 配当 2 時間 )

質 問		生徒の実態	備 考
	<b>【関心・意欲・態度】</b>		
1	武士に関する関心	解答率 167 ÷ 75 人 ÷ 4 点 = 55,7 %	
2	鎌倉時代の政治に関する興味 ( 北条氏の権力拡大 )		
3	生活史・精神生活		
4	中世と地域との関わり		
	<b>【思考・判断】</b>		
5	中世からの影響 ( 四字熟語 )	解答率 110 ÷ 75 人 ÷ 4 点 = 36,7 %	
6	史料の読解 ( 北条政子の演説・承久の乱 )		
7	現代との共通点 ( 専制政治の崩壊・連立政権 )		
8	地頭の勢力拡大に対する荘園領主の対抗策 ( 下地中分など )		
	<b>【技能・表現】</b>		
9	人物への共感 ( 北条政子の演説 )	解答率 161 ÷ 75 人 ÷ 4 点 = 53,7 %	
10	系図史料からの読み取り ( 頼朝の系図 )		
11	実力者の記述 ( 北条氏の系図 )		
12	武士の生活 ( 一遍上人絵伝 )		
	<b>【知識・理解】</b>		
13	政治の知識 ( 執権 )	解答率 104,5 ÷ 75 人 ÷ 4 点 = 34,8 %	
14	戦乱の知識 ( 承久の乱 )		
15	政治の知識 ( 六波羅探題 )		
16	〃 ( 連署 )		
17	〃 ( 評定衆 )		
18	司法の知識 ( 貞永式目 )		
19	司法の知識 ( 引付衆 )		
20	経済の知識 ( 下地中分 )		

【生徒の実態】

- ・ 関心や意欲はまずまず高い。
- ・ 技能や表現力には自信を持っているようだ。
- ・ 事前アンケートからも、中学時代に習った学習内容をかなり忘れている実態が明らかだった。そのため、思考・判断力・知識・理解が低くなったのではないか。
- ・

【生徒の実態レーダーチャート】



【補充資料3 - 】生徒自己評価シート

「第4章3 武士の社会」( 配当2時間 )

2年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

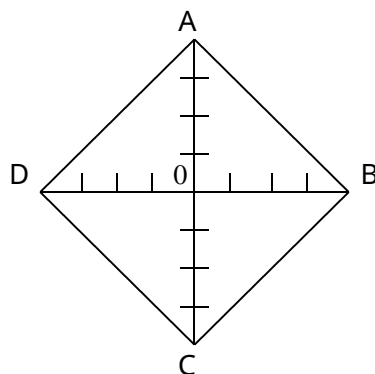
質 問			
1	貴族よりも武士が好きだ。	はい	いいえ
2	北条氏が幕府の実権を握る経緯を知りたい。	はい	いいえ
3	鎌倉時代の武士の生活ぶりを知りたい。	はい	いいえ
4	中世の地名の名残を知っている。	はい	いいえ
	合計A		
5	「一生懸命」はもともと何と書かれていたかを知っている。	はい	いいえ
6	北条政子の演説から、当時の幕府の状況を理解できる。	はい	いいえ
7	若い為政者が年上の家来達を上手くコントロールできる術を知っている。	はい	いいえ
8	地頭の力が拡大すると困るのは誰かを知っている。	はい	いいえ
	合計B		
9	北条政子の演説を現代語訳できる。【史料集 P107】	はい	いいえ
10	摂家将軍と源頼朝のつながりを系図から読み取れる。【教科書 P94】	はい	いいえ
11	北条氏の歴代の当主の系図を書ける。【教科書 P93】	はい	いいえ
12	武士の館の図から当時の生活の特徴を読み取り、発表できる。【資料集 P106】	はい	いいえ
	合計C		
13	北条時政から始まる幕府の実権を握る地位を知っている。	はい	いいえ
14	幕府が朝廷に優位に立った戦いの名前とその結果を知っている。	はい	いいえ
15	( 14 ) の戦いの後に、幕府が京都に置いた機関を知っている。	はい	いいえ
16	( 13 ) を補佐する役職を知っている。	はい	いいえ
17	御家人たちの合議制のための機関を知っている。	はい	いいえ
18	武家初の法典を知っている。	はい	いいえ
19	土地問題を専門に扱う幕府の裁判所を知っている。	はい	いいえ
20	地頭の荘園侵略への荘園領主の対抗策を知っている。	はい	いいえ
	合計D		

【自己分析】

ポイント

A	
B	
C	
D ( 0,5 ポイント = 1点 )	

【自己分析レーダーチャート】



【補充資料3 - 】生徒自己分析シート

「第4章3 武士の社会」( 配当2時間 )

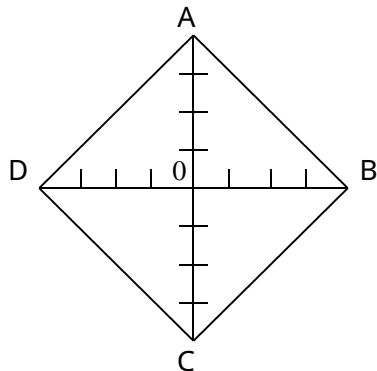
2年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

質 問			
1	貴族よりも武士が好きになった。	はい	いいえ
2	北条氏が幕府の実権を握る経緯がわかった。	はい	いいえ
3	鎌倉時代の武士の生活ぶりがわかった。	はい	いいえ
4	中世の地名などの名残を身近な所でも捜してみたい。	はい	いいえ
合計 A			
5	「一所懸命」から、武士の土地に対する思いが理解できた。	はい	いいえ
6	北条政子の演説から、当時の幕府の状況が理解できた。	はい	いいえ
7	2代将軍頼家は年長の家来達を尊重し、幕府を運営するべきだったとわかった。	はい	いいえ
8	地頭の力が拡大すると困るのは誰かがわかった。	はい	いいえ
合計 B			
9	北条政子の演説を政子になりきって現代語で表せ、発表できた。	はい	いいえ
10	撰家将軍と源頼朝のつながりを系図から読み取れた。	はい	いいえ
11	北条氏の歴代の当主の系図を書けた。	はい	いいえ
12	武士の館の図から当時の生活の特徴を読み取り、発表できた。	はい	いいえ
合計 C			
13	北条時政から始まる執権の役職を知っている。	はい	いいえ
14	幕府が朝廷に優位に立った戦いの名前とその結果を知っている。	はい	いいえ
15	( 14 ) の戦いの後に、幕府が京都に置いた機関を知っている。	はい	いいえ
16	( 13 ) を補佐する役職を知っている。	はい	いいえ
17	御家人たちの合議制のための機関を知っている。	はい	いいえ
18	武家初の法典を知っている。	はい	いいえ
19	土地問題を専門に扱う幕府の裁判所を知っている。	はい	いいえ
20	地頭の荘園侵略への荘園領主の対抗策を2つ知っている。	はい	いいえ
合計 D			

【自己分析】 合計点 自由記述欄 ( 理解できた所、復習が必要な所、その他何でもよい )

A		
B		
C		
D ( 0,5 ポイント = 1 点 )		

【自己分析レーダーチャート】



【補充資料3 - 7】日本史学習指導案例

教科(科目)	日本史B	単元名	武士の社会
本時主題	北条氏の台頭、承久の乱 (1時間目/2時間)		
本時の目標	<p>「一所懸命」の言葉の由来から、封建制度の前提である土地の給与の重要性を理解し、鎌倉幕府が御家人の合議制に移行し、さらに北条氏への権力集中により執権制度が確立していく過程の理解を通して、歴史とそれを作り上げる人間への関心・それらを学ぶ意欲を高め、積極的な学習態度を持つ。 【関心・意欲・態度】</p> <p>鎌倉幕府にとって、承久の乱が存亡の危機であったことを、北条政子の心情を通して理解し、朝廷側と幕府側の駆け引きを史料を通して学び理解を深める。 【思考】【表現・技能】【意欲・態度】</p> <p>武家政権を存続させるために、幕府が頼朝に近い血縁の摂家将軍を擁立し、政権の面目を保ちながら、一方で実質的な武士による支配を強めていく事実を資料を通して理解する。 【思考・判断】</p> <p>承久の乱をきっかけに、公武関係でも、鎌倉幕府が当初の二元的支配から公家政権に優位にたち、土地の実質的な支配権も地頭の手握られるようになったことで、東国の地方政権から全国的な政権に成長していった点を理解させる。 【思考・判断】</p>		
指導上の内容・ねらい	学習活動	指導上の留意点・観点別評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 執権政治を通して、鎌倉幕府が封建制度を確立し、政権を存続させていく過程を理解させる。</li> <li>・ 幕府存亡の危機である承久の乱を史料を通して、登場人物の気持ちになって理解させる。</li> <li>・ 將軍家の血筋を守ることが武家政権存続の重要な要素になっていたことを系図を通して理解する。</li> <li>・ 承久の乱の勝利が鎌倉幕府の政権に持つ意味を理解する。</li> <li>・ 武家政権が名実共に確立した理由を、執権政治を中心にして考える。</li> </ul>	<p>頼朝の死後の2代将軍への不信の高まりと御家人中心の合議制への移行を理解 北条氏の他氏排斥と権力集中の過程の理解</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>質問1 『一生懸命』はもともと『一所懸命』と書かれていた。にあてはまる言葉は何か。その意味は。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一所懸命の「所」は所領(土地)のことで、武士にとって命を懸けて守るほど重要な点を理解する。</li> <li>・ 北条氏の執権制の確立には、御家人の合議制の推進、と北条氏の他氏排斥による権力の集中、の2面あったことを理解する。</li> <li>・ 執権の言葉の由来と意味を理解する。</li> </ul> <p>承久の乱の概要の理解</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>質問2 北条政子の演説の内容から、鎌倉幕府がどのような状況だったといえるか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 武家政権としての鎌倉幕府は、この時点でも公家政権を圧倒するものではなく、この乱で幕府最大の危機を迎えていたことを理解する。</li> <li>・ 3代将軍実朝の朝廷側への接近が御家人達から憂慮される事態だったことを理解する。</li> </ul> <p>頼朝の血縁が絶えた後の鎌倉幕府存続への手だての理解</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>質問3 摂家将軍と頼朝の系図を見て、理解できることは何か。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 摂家将軍が頼朝の縁に繋がっていることを系図で確認し、源氏の系統を何とか将軍に残そうとした幕府の配慮を読みとる。</li> </ul> <p>承久の乱が、鎌倉幕府の支配権が東国のみならず全国化していく要因になっている点を理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝幕関係での幕府優位の確立(二元的支配の克服)</li> <li>・ 地方支配の拡充(所領の没収、新補地頭の任命)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>質問4 なぜ幕府が公家政権に対し優位にたてたのか、本時の学習から考えなさい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習内容から、鎌倉幕府が公家政権に優位にたつた要因を推察する。</li> <li>・ 次時への問題提起。</li> </ul>	<p>質問1・・・「所」が何を意味するのかを考えながら、2代頼家の所領裁判の判決でのいい加減さの「ソド」をあげ、御家人達の「土地(所領)」への強い思いを理解させる。 【関】</p> <p>&lt;評価方法&gt; 発問、挙手、発表</p> <p>質問1で、2代頼家の専政への不信感が御家人達の合議体制に繋がったことを理解する。また、現代政治でも「連立」が権力維持の重要な要素になっている事を考えさせる。 【思】</p> <p>質問2・・・ 政子の演説を事前に現代語に書き直させ、班毎に発表させる。【表・技】 プリントに自分の考えを記入させ、意見発表させる【思】・【表・技能】</p> <p>&lt;評価方法&gt; ・ 各自作成した現代語訳を事後提出する。 ・ 各班で一番良いと評価されたものをクラス全員の前で発表させる。他の生徒の発表を聞いて、再度書き直す。 【相互評価・自己評価】 プリントの事後提出で確認する。</p> <p>質問3・・・プリントに自分の考えを記入させる。 【技・表】 意見を発表させて理解を徹底させる。【思】</p> <p>&lt;評価方法&gt; プリント記入、挙手、発表</p> <p>幕府全国化の根拠となる政治上、経済上のポイントを確認する。【思】</p> <p>質問4・・・ 本時の学習内容の確認と次時以降の問題提起を行う。 【思】</p> <p>&lt;評価方法&gt; プリント記入、意見発表</p>	

【補充資料 3】 雪中の悲劇 ～三代將軍実朝の暗殺～

一二一九年（承久元）正月二十七日。昼は晴れていたのに、鎌倉は夜に入って大雪になった。その中で、鶴岡八幡宮では、右大臣となった將軍実朝の就任拝賀の式典が盛大にとりおこなわれていた。夜も更けた。参列のために京都から下ってきた公卿たちが立ち並んでいる前を、たいまつを振りながら先導する前驅の者が通りすぎる。その後から、参拝を終わらせた右大臣実朝がゆつくりと石段を下ってきた。まだ二十八歳、若々しく育ちのよい貴公子である実朝は、愛妻の兄、坊門忠信らに一礼して歩みすぎた。

そのときである。頭巾をかぶった法師が突然走り寄り、実朝が引きずるようにして歩いてきた下がさねの衣の上に飛び乗ったかと思うと、やにわに「親の敵はかく討つぞ」とさげんで、実朝の頭部に一太刀あびせた。しやくを持ったまま雪中に転倒した実朝にとどめをさし、その首を打ちおとした。ほとんど同時に、三、四人の法師がばらばらと走り出て、供の者たちを追い散らし、前驅としてたいまつを振っていた側近の一人、源仲章めがけておそいかかった。仲章もたちまち討ちとられた。

じつにあつという間の出来事だった。数千の武士はすべて鳥居の外に控えており、その場には誰一人武装した者はいない。雪中の悲劇は、かくしていともたやすく演じ終えられた。

血相をかえて逃げまどう公卿たちの悲鳴に、変事をさとした武士たちは、すぐさま境内に突入したが、八幡宮の石段の上から、「われこそは八幡宮別当阿闍梨 公暁なるぞ。父の敵を討ちとつたり」と暗闇をつらぬく大音声を聞いただけであつた。

実朝の首をとつた公暁は、引きあげてから食事の間もその首を小脇から離さず、やがて使者を三浦義村の屋敷につかわし、「今こそ我は東国の大將軍である。その準備をせよ」と言い送つた。義村は偽つて承諾の返事をし、「お迎えの武士をさしあげます」と言いながら、武勇のほまれ高い従者をつかわして公暁を討たせた。義村からの迎えを待っていた公暁はついに待ちきれず、一人、雪深い山道を越え、義村の屋敷に向かう途中、討手に行き会つた。はげしく戦つたが、公暁も頼家の子で、為朝の血筋を引いているだけあつて、勇猛なこと人に優れており、討手を切り散らしたつ、義村の家の板塀までたどりついた。しかし、塀を越えようとするとところをついに討ち取られた。

『吾妻鏡』によれば、北条義時は本来、実朝の側近くで剣を捧げる役だったのが、参拝の始まる直前に、「気分が悪くなつたから」といつて、その役を仲章に譲り、にわかには帰宅して難を逃れた、という。これはまさしく事件を予知していた者の行動としか思われない。

今までの通説的見解では、北条義時が、ひそかに若い公暁をそそのかして実朝を暗殺させ、さらに一味の三浦義村に命じて公暁を葬つたというものだったが、作家の永井路子氏は歴史小説『環』で次のような解釈を示した。

公暁の背景にあつたのは三浦義村である。義村は、実朝と義時の二人を暗殺させたのち、公暁を將軍に立て、みずから幕府の実権を握る計画であつた。しかし、いち早くそれを察知した義時がその場を逃れてしまつたため、計画はくずれた。義村はただちに裏切つて公暁を殺し、一身の安全をはかつたのである、と。

義村の妻は公暁の乳母であり、その子光村は鶴岡八幡宮の稚児で、公暁の門弟であつた。義村と公暁の縁故は深かつたのである。実朝と義時を一時に暗殺してしまえば、あとは公暁を將軍に立て、乳母の夫である義村が今の北条氏の立場に立つて幕府の実権を握るのはいたつて容易なはずである。

